国際文化観光都市・京都を発信

― 公益社団法人　京都市観光協会 ―

北川洋一さん

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年賛助団体として当財団の運営にご協力いただき、また、京都ならではの観光資源を活用した事業実施や観光情報の発信など、京都の観光振興を推進されている公益社団法人 京都市観光協会です。事務局長の北川洋一さんにお話をうかがいました。

京都市観光協会のお仕事

京都市観光協会では、大きく分けて三つの事業を行っています。第一に、国際文化観光都市・京都の魅力を、インターネットや情報誌など、さまざまな媒体を通して国内外に広く発信し、誘客に取り組んでいます。第二に、京都のブランド力を高めるため、観光資源の発掘及び企画考案に取り組んでいます。第三に、京都へ来ていただいたお客様の受入環境を整え、観光案内所などでのおもてなしにも力を注いでいます。

京都ならではの体験をお届け

京都の魅力の本質は、日常生活の中に身を置いてこそ体感できるものであるとの考えから、京町家や温泉などの観光資源を掘り起こし、京都の「ほんもの」に触れる機会を拡充しています。

例えば、『京都「千年の心得」』事業では、京都の伝統の奥深さに触れていただける各種プログラムや、朝や夜に活動できる体験型メニューなど、一度にたくさんの方にご参加いただけるものから、参加者を限定してディープな京都を体験していただけるものまで、さまざまな企画をご用意しています。いずれも京都で育まれてきた歴史、文化、技に触れていただける上質なプランであると自負しています。

こういった文化体験を通して、京都が大切にしてきた暮らしや生き方、美意識といったものを感じていただき、お客様の京都滞在がより思い出深いものとなることを目指しています。

千年の都の宝を次代へ

先人の知恵や工夫・努力により積み重ねられてきた文化は、京都の宝です。これからも、守るべきもの、伝えていくべきものを次代にしっかりと受け継ぎ、さらに新しいものを生み出し、育んでいくことが必要です。こうした営みが多くの人々によって支えられ、宝にさらに磨きをかけていけるよう、京都と人、文化と人とをつないでいくことが京都市観光協会の使命です。今後とも、持続的な京都の魅力創出の一翼を担う気概の下、積極的な事業展開を図っていきたいと考えています。

京都市観光協会が毎月発行する
京都観光の先取り情報誌

平成28年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

平成28年度賛助団体

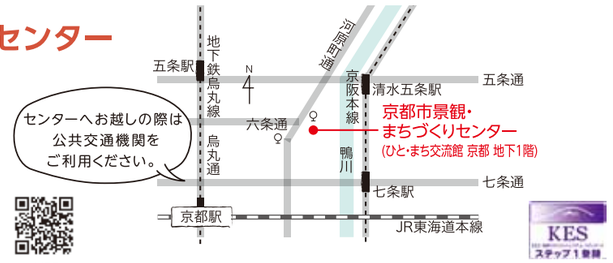
「京くらし」ネットワーク	ぐるっとVIEW	アルバック 株式会社地域計画建築研究所	JR SETAN	相続相談センター
ゼロホーム	フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
公益社団法人 京都市観光協会	be-kyoto	都ハウジング	大阪ガス	京都府不動産コンサルティング協会
RITSUMEIKAN	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）	LATSS FORUM	株式会社アーキスタイル	

※平成28年8月末現在

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
（河原町五条下る東側）　ひと・まち交流館 京都 地下 1 階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
WEB：http://kyoto-machisen.jp
京都市景観・まちづくりセンター

Facebook　WEB



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター　京まち工房　第 76 号　2016 年 9 月　編集・発行　公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

京まち工房 76

パートナーシップで進めるまちづくり

特集
地域の個性が輝く
景観まちづくりを目指して
～京都市地域景観まちづくりネットワークの取組～
(P2-3)

地域まちづくり・京町家の専門家紹介 4
「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介
まちセンからのお知らせ 5
四条町大船鉾会所の修復 6
私と京都／スタッフのつぶやき 7

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

地域の個性が輝く景観まちづくりを目指して

～京都市地域景観まちづくりネットワークの取組～

京都市地域景観まちづくりネットワークとは……

京都市地域景観まちづくりネットワークは、京都市の『地域景観づくり協議会』制度の認定を受けた地域の集まりです。

制度の認知を促進するために、当時の認定地域が協同して京都市の都市計画情報システムに協議会制度を記載することを申し入れたことがきっかけとなり、以降、隔月で集まる機会を持つことになりました。昨年 8 月には門川市長が開催するおむすびミーティングに参加したことを契機として、名称を京都市地域景観まちづくりネットワークと定め、正式にスタートを切りました。

地域が自ら集い、互いに学び合うネットワーク

『地域景観づくり協議会』とは…

地域住民と新たに地域で建築等をしようとする人が、地域の方向性を共有し、一緒に景観づくりを進めることを目標としており、そのための事前協議を義務付けることで、これを実現しようとする制度です。

詳しくは、京都市のHPをご覧ください

京都市地域景観づくり協議会 検索

京都市地域景観まちづくりネットワークに参加する地域同士の交流のため、現地視察を行いました。第1回は明倫学区で、祇園祭（後祭）の宵々山の日に、景観づくりで気をつけていることや、現在の課題について説明を受けながらまちあるきをしました。

現地視察

情報交流

京都市地域景観まちづくりネットワークは、地域が自主的に集まり立ち上げたネットワークであることが大きな特徴で、参加地域が互いに交流することを主な活動としています。現地視察や情報交流を通して、それぞれの地域の活動の充実につなげるとともに、そこで明らかになった課題を基に制度改善も目指しています。また、これからこの制度を活用しようという地域にも、各地域の経験を役立ててもらおうという思いもあります。

この制度は事前協議のみを義務付ける制度なので、“話し合いだけ”で物事を進めていくためのさまざまな知恵や工夫が求められます。しかし、制度運用が始まって約 4 年の実績とともに、徐々に地域に新しく来られる人を温かく迎える基本姿勢や、地域が目指す方向性を共有するためのツールの作成、そのための人との接し方の工夫、それでも理解していただけない時の対応策など、ネットワークで互いに交流することでノウハウも積み重なりつつあります。

新しく加わりました！

仁和寺門前まちづくり協議会

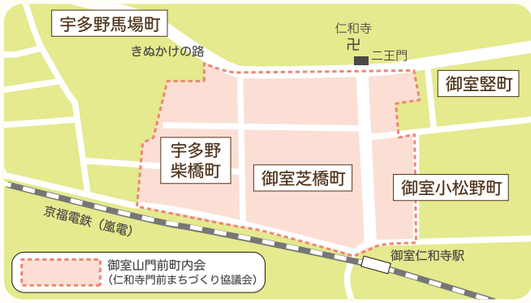
京都市地域景観まちづくりネットワークの最も新しい仲間が、仁和寺門前まちづくり協議会です。平成28年7月に景観づくり計画書の認定を受け、当ネットワークに仲間入りしました。

仁和寺門前では、地域内で大規模な建築計画が持ち上がったことや、住民の高齢化を背景に、広い敷地を持つ住宅が空き家になるケースがあり、売却後に、仁和寺門前の風情にふさわしくない土地利用が行われる可能性があることから、門前の3町で構成される町内会を母体に協議会が組織されました。

仁和寺門前はこんな地域！

仁和寺門前は、世界文化遺産・仁和寺の門前という観光地でありながら、閑静な住宅地として落ち着いたたたずまいを維持しています。このような地域の特性を守り継いでいくために、次の 3 つを大切にまちづくりを進めています。

（1）門前町固有の景観を後世に伝える。
（2）門前にふさわしい風情と静けさを守る。
（3）仁和寺とそのバッファゾーンとしての一体性を継承する。



これからに向けて

地域景観づくり協議会がきっかけとなって、地域の活動も盛り上がりをみせています。

❶松・桜並木復活プロジェクト

・京福電鉄（嵐電）御室仁和寺駅から仁和寺の二王門まで、かつては松並木が続いていたそうです。門前にふさわしい、参拝者を迎える景観の創出に向けて、並木を復活させる取組を始めました。

❷近隣の大学・周辺地域との連携

・地域の歴史を知り、これからのまちづくりに役立てるため、立命館大学と連携し、地域に長く住まわれている方々へのヒアリングを実施しています。
・きぬかけの道でつながる世界文化遺産・金閣寺、龍安寺とも一体となった景観保全を目指しています。

❸地域行事の活性化・住民同士の交流

・若い人の流入も多いので、多くの住民が参加できる楽しい地蔵盆を企画しています。
・ 仁和寺との関係を活かし、一緒に行事がしたいと考えています。
・住民同士が交流する場作りを計画しています。

榊田理事長から

これからは、世界文化遺産・仁和寺のバッファーゾーンとしての議論を深めていきたいと考えています。勉強会などを開催し、協議会の存在を知ってもらうと同時に、まちづくりの啓発に力を入れたいと思います。そして、先行する地域の取組を参考に協議会の活動を進めていきたいと考えてます。

その他

認定へ向けた取組が広がっています！

仁和寺門前に続いて、京の三条まちづくり協議会、祇園新橋地域の元吉町まちづくり部（京まち工房第71号掲載）、嵐山景観まちづくり協議会準備会が、認定を目指して活動されています。今後の広がりも期待されるところです。

予告 景観まちづくりに関心のある方、ご参加をお待ちしています！

京都市地域景観まちづくりネットワークシンポジウム

地域景観づくり協議会制度の認定地域が集い、その創意工夫に満ちた取組を紹介し合い、景観まちづくりの到達点と今後の展望を語り合います。景観まちづくりに取り組んでいる方、これから始めようと考えている方、多くの方のご参加をお待ちしています。

【日　時】平成 28 年 12 月 11 日（日）14 時～17 時
【場　所】未定
【主　催】京都市地域景観まちづくりネットワーク
【共　催】NPO法人京都景観フォーラム
　　（公財）京都市景観・まちづくりセンター

＜詳細は、まちセンホームページでご案内します。＞

地域景観づくり講座

市民が主体となった地域からの景観づくりを推進するため、地域の景観づくりにおいて中心的な役割を担うことを想定した実践的なプログラムです。お住まいの地域の景観づくりに興味のある方、実際に取り組んでみようという方のご参加をお待ちしています。

【開催日】（原則全講座受講・全 6 回）平成 28 年 11 月 11 日（金）／11 月 19 日（土）／11 月 22 日（火）／12 月 6 日（火）／12 月 11 日（日）／平成 29 年 1 月 10 日（火）／1 月 31 日（火）
【場　所】（公財）京都市景観・まちづくりセンター他
【内　容】まちあるき、ワークショップ、実践地域の紹介など
【主　催】京都市
【問合せ】（公財）京都市景観・まちづくりセンター

制度等に関するお問合せは　京都市 都市計画局 都市景観部 景観政策課　☎075-222-3397　FAX：075-222-3472

第6回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

支え合い、安心できる地域づくりのお手伝い

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々を紹介しています。今回は地域まちづくりの専門家です。

近隣住環境計画を説明中の姿

今回はこの方！

松原 永季氏（有限会社スタヂオ・カタリスト代表）

松原さんは、特に防災まちづくりの専門家として神戸を中心に活動されています。京都市が進める、京都の歴史的資源を残しながら行う修復型の防災まちづくりを進めるため、お力添えをいただいています。

まちづくりの専門家を志すに至った経緯やきっかけを教えてください。

もともと環境や地域と建築を結び付けて設計することに興味があり、恩師の勧めもあって、神戸の設計事務所に入所しました。入所後 3 年目の時に阪神・淡路大震災があり、自分自身も所長の住む地区で復興に携わったことがまちづくりに携わるきっかけです。最初の数年はボランティアで関わっていましたが、活動の途中からは、神戸市のまちづくり専門家派遣制度で、事務所として神戸大学と連携しながら、密集市街地の調査なども行うようになりました。こうした具体的な復興まちづくりに関わるのと同時に、当時若手だった他の事務所のメンバーとともに、震災後 3 年後のまちの様子を写真で記録、その結果をまとめて雑誌に掲載するなど、さまざまな経験をしました。このように、密集市街地再生の仕事はまちづくりに携わる出発点でもあり、現在に至るまでずっと取り組んでいます。

専門家として、どのようなことを目指して、日々活動されていますか？

天才的な左官職人の方によく言われた「“ハッピー”な建築をせなあかんで！」という言葉が印象に残っています。人を幸せにする建築という趣旨かと思うのですが、それをまちに置き換えると、「より多くの人を幸せにするようなまち」。地域の固有性、地域の歴史が継承され、いろんな立場の人が許容されて、そのまちに暮らすことによって、よりよく生きることができるまちではないかと思います。

特に下町や密集市街地という場所は、もともとの成り立ちからしても、さまざまな立場の方が集まってコミュニティを継承しながら育み合うという、人の再生のベースになりうる場所でもあると思います。ところがそういう場所が現実には衰退していってしまっている。それをもう一度戻していくことができないか。

そういう観点から、空き家の再生にも取り組んでいます。例えば事務所のある神戸市長田区の駒ヶ林地区では、立ち話できる路地や、喫茶店などの普段気軽に集まれるような場、シングルマザーの自立に向けた活動ができるような場、知的障害がある若者のためのアトリエなどを、空間として用意していっています。なにもしないと、高齢化などの課題が加速していくだけかもしれない場所を、弱者も含め、いろいろな立場、状況、背景、条件を持つ多様な人が集え、活動の拠点や、支え合いの仕組みを備えたまちをつくっていきたいと思っています。

まちづくりに携わる思いはどんなところにありますか？

建築で関与できるのは基本的に敷地内だけですが、まちづくりでは、地域という社会構造の変革、改善にまで関わることができる可能性がある。そこに面白さを感じています。

また、阪神・淡路大震災の後、区画整理などによって新たなまちができたことは評価できますが、社会的にやや弱い立場の方がいられなくなるなど、昔からのコミュニティが壊れてしまったり、道路整備などによって路地の持つ雰囲気の良さや固有の歴史が失われた場面を多く見てきました。そのため、近代的な都市計画が成し得なかった、それ以外のやり方もあるのではないか、という使命感もあります。

今年度から、京都でも防災まちづくり活動に専門家としてご支援いただきますが、京都のまちの印象と、今後の意気込みをお聞かせください。

昨年度まちセン主催の地域まちづくりワークショップに関わった際に、住民の方々の京都のまちに対する愛情の深さや強さ、京町家や景観に対する誇り、地域のつながり、歴史を背負っている自負を感じました。それと同時に、確かに歴史的に古い建物が減っている印象は否めませんが、とはいえ良質な建物は依然残っているように思います。実際、京町家の新しい活用に取り組む動きも強く、その意欲も他都市になく強く感じるところです。私自身、もともと京都が出身地で愛着もあります。これまでは外から見るだけでしたが、今回、地域の方と一緒にまちづくりについて考えられるのは、まちの歴史に関わらせていただけることでもあり、とても嬉しく、ありがたく思っています。これから地域の方と一緒にがんばりますので、よろしくお願いします。

展示施設

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介

Vol.9

斉藤 和恵 さん

このコーナーでは、景観・まちづくりセンター1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをインタビューにより紹介します。
今回は、展示案内ボランティア歴10年の斉藤和恵さんにお話をうかがいました。

Q 展示案内ボランティアを始められたきっかけは？

偶然、広報誌でボランティア募集を見たのがきっかけです。私は京都出身なのですが、大人になってから文化財や史跡に囲まれて暮らしていることの素晴らしさを改めて感じていたので、ボランティア活動を通して京都の歴史をもっと深く学べたらと思いました。

Q 斉藤さんおすすめの京都スポットはどこですか？

今年は徳川家康没後 400 年にあたります。京都には徳川家ゆかりの社寺史跡が多くありますから、自分なりにテーマを設けて訪れてみてはいかがでしょうか。私は「京都史跡ガイドボランティア協会」でも活動しており、同会ではこの秋、徳川家にちなんだ史跡ウォークを開催します。歩く順路は会員の方々と考え、下見と勉強会を重ねるのですが、訪れる度に発見があり楽しいですよ。

Q 「京のまちかど」でおすすめの展示物は？

「市街地の移り変わり」がおすすめです。1200年をこえる歴史の中から、まちづくりの特徴がよくわかる各時代をとりあげ、現在の京都を撮影した空中写真の上に重ねて表現されているものです。京都の都市空間形成の原点といえる平安京から、現代の京都に至るまでのまちづくりの歩みがよくわかります。

Q 展示案内ボランティアとして気を付けていることは？

同じ展示を見ても、人によって感じることはさまざまです。来場した人が何を感じたのかに寄り添い、その人の興味・関心に合ったお話をするよう心掛けています。

まちセンからのお知らせ

「巽和夫記念文庫」を開設しました

故・巽和夫（たつみかずお）氏（元京都大学名誉教授、元京都市建築審査会会長、元全国建築審査会協議会会長、都市住宅学会初代会長）のご遺族や有志による「巽和夫記念文庫プロジェクトチーム」（代表髙田光雄京都大学大学院工学研究科教授）のご協力の下、巽氏が所蔵されていた住まい・まちづくりに関する資料 2,105 冊の蔵書を当財団にご寄贈いただきました。

これを広く市民の皆様にご活用いただけるよう、「ひと・まち交流館 京都」地下 1 階図書コーナーに「巽和夫記念文庫」を設置するとともに、6月17日に開設セレモニーを執り行いました。

今後、この文庫を核に、住まい・まちづくり系大学の研究室との連携を推進し、ビブリオバトルの実施、研究発表・交流の場の提供などを行い、施設管理者として、図書コーナーの積極的な活用を図ってまいります。

ーまちセンの平成 32 年度までの運営方針ー 第5次中期経営計画を策定しました！

この度、今後5年間の中期経営計画を策定しました。京都市における地域社会、市民協働の景観・まちづくり、京町家の動向や、当財団の置かれた現状と課題等を踏まえ、財団の使命を、①京町家等の保全再生を通した歴史的町並みの保存継承②密集市街地・細街路における防災まちづくりをはじめとする魅力あふれる安心・安全な地域まちづくりの支援とし、各種事業や財務の自律化、組織体制等の取組方針や目標を定めました。これを基に、京都らしい景観と豊かな居住環境の形成に向け、京都市と連携し、積極的に取り組んでまいります。

詳しくは、財団ホームページをご覧ください。

まちセン公式 Facebook を始めました

京都市景観・まちづくりセンターは、この度Facebookを始めました。景観やまちづくりに関するさまざまな情報をアップしていきますので、ぜひ「いいね！」を押して応援してくださいね！！

ワールド・モニュメント財団支援事業　京町家再生プロジェクト第3期

四条町大船鉾会所の修復

京都の伝統的木造都市住宅「京町家群」の保全・再生を目的とした「京町家再生プロジェクト」の第 3 期の取組として、祇園祭・大船鉾の祭事の拠点となる四条町大船鉾会所の修復や普及・啓発の活動について、ワールド・モニュメント財団（米国、World Monuments Fund）から、約 28 万 2 千ドルの助成・支援*を受けることとなりました。後祭りの山鉾巡行への復帰を果たした大船鉾の復興を支える会所として、地域で大切に守り伝えていくという四条町の皆さんの熱意が、国内外の支援者を動かしたのです。

この取組は公益財団法人四条町大船鉾保存会、特定非営利活動法人京町家再生研究会及び当センターの協働により実施しています。また、修復の設計・施工は一般社団法人京町家作事組が手掛けます。

今後、祇園祭の祭事の場、大船鉾の収蔵庫などに活用され、京都の歴史と伝統を発信する拠点として、歴史的景観の基盤である京町家と祇園祭という伝統文化が一体であることを象徴するプロジェクトを目指しています。

なお、平時は公益財団法人四条町大船鉾保存会の活動や京都青年会議所の事務所として活用される予定です。

*助成・支援は、フリーマン財団（米国）の協力を得たものです。

「四条町大船鉾会所」について

所在地
京都市下京区四条町355
（新町通四条下る西側）

所有者
公益財団法人四条町大船鉾保存会

建物概要

住棟形式	2階建て
建築年	1933年（昭和8年）※所有者による情報
敷地面積	211㎡
建築面積	153㎡
延べ床面積	256㎡

修復への流れ

2016年（平成28年）2月	ワールド・モニュメント財団による助成・支援に関する契約を締結、記者発表（契約者：ワールド・モニュメント財団と当財団）
2016年3月	京都市景観重要建造物に指定
2016年8月	修復工事着工
2016年9、10月	見学会など
2017年（平成29年）3月	修復工事竣工
2017年7月	祇園祭に合わせて修復完成披露会を予定

定期的に関係者による検討委員会を開催しています。

京町家再生プロジェクトの経緯

世界最大の民間非営利団体として、国や文化の枠を超え、歴史的建造物などの文化遺産を保護・保存するため、世界各地で経済的・技術的支援活動や教育・啓発活動を行っているワールド・モニュメント財団との出会いは、ジャパン・ソサエティ・ニューヨークと当財団が共催した 2008 年（平成 20 年）11 月のニューヨークでの京町家シンポジウムまで遡ります。立命館大学のリム・ボン教授の発案により、日米の歴史的建造物の保全に関わる専門家が集結した会議へ、ワールド・モニュメント財団のボニー・バーナム理事長（当時）が参加され、京町家の再生に関心を寄せていただいたことが契機となりました。その後、2010・2012 年版ワールド・モニュメント・ウォッチへの選定を経て、第 1 期の釜座町町家の修復、現在は「らくたび京町家」として活用されている第 2 期の旧村西家住宅の修復へ支援を受けました。この 8 年間、ワールド・モニュメント財団稲垣光彦日本代表によるニューヨーク本部への積極的な働きかけ、支援対象となった京町家の所有者や特定非営利活動法人京町家再生研究会など、関係者による京町家再生の普及啓発の積み重ねにより、第 3 期へとつながってまいりました。

京町家再生プロジェクト特設HP
http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project

私と京都

ワールド・モニュメント財団 日本代表
稲垣 光彦

祇園祭の一日

丸に左違え鷹の羽の家紋を印し、裃姿で祇園祭山鉾巡行の先導を務める。この“想い”は今年 7 月 24 日の後祭り（還行祭）で叶えられた。7 月 17 日の前祭りに巡行した 23 基の山鉾に続き、153 年ぶりに蘇った龍頭を拝し、一昨年に復活した四条町大船鉾が、後祭り 10 基の山鉾巡行の殿を務めた時だ。

京都室町育ちの母の影響か、東京浅草生まれの私にとり京都は幼い時から身近な存在だ。初めての京都暮らしは東大紛争の時に浪人をした 19 歳の時だ。まだ畑が散在していた岡崎の安下宿。小遣いを節約しては好奇心旺盛な下宿仲間と当時はやり始めたサパークラブ（今で言うカウンターバーのようなところ）でお酒を覚え始め、月見といっては近くの南禅寺境内での夜通しの酒盛り。そして舞子さんがよく来る先斗町の甘味処でひとり合点の情緒に酔いしれるなど、覚えているのは勉学とは程遠い世界のことばかりである。

1994 年のユネスコ文化遺産登録を受け京都駅烏丸口に設置された「古都京都文化財観光案内版」の寄贈。また、早春の京都観光振興施策として 2013 年から始まった東山花灯路の二回目における寧々の道圓徳院での「世界の文化遺産保護活動事例写真展」開催と翌年の助成支援。そして 2010 年の釜座町町家修復に始まり、今回の四条町大船鉾会所修復で 3 回目を迎えた京町家再生プロジェクト支援など、企業人としてのときも含め、京都地域社会の皆さんとの協働活動での関わりは長く、既に 20 年の歳月が経とうとしている。

今回の後祭りでは、大船鉾の組み立てが終わり曳き初めが行われる 20 日に入京し、宵宵宵山、宵宵山、宵山、そして巡行を体験した。数日続く宵山それぞれの違いはと言えば、それぞれが宵山で、屏風祭りのお飾りをして、知己の人、地域の人達とのざっくばらんなひと時を楽しむということのようだ。よく解らないままに宵宵宵山は四条町大船鉾会所で、宵宵山は南観音山の小島邸で、宵山は日和神楽に同行し、翌日の巡行に備えて一足早くホテルに戻る途中で軽く一杯、とその日その日の時の流れを十二分に味わった。「宵」を「酔」と置き換えてその三晩の違いを一人“合点”すると同時に、日々の“奔放な語らい”の楽しさと大切さを改めて実感しえた旅でもあった。四条町大船鉾会所修復が終わる来年の祇園祭が楽しみでならない。

スタッフのつぶやき

スタッフN.U.

4 年程前から、陶芸教室に通っています。電動ろくろは早々に挫折し、手びねりという方法で作っています。成形はそれなりにできるようになったものの、釉薬を掛け、焼成を経て、出来上がった作品は、たいてい脳内作品とは大違い……。失敗続きで、一番楽しいのは何を作ろうかと考えているときかも、と落ち込むこともありますが、窯出しまで出来上がりがわからないところも、陶芸の難しさであり、おもしろさだと思います。他にも、「無になる」ことができる点も、続けている大きな理由かもしれません。

陶芸に限らず、どんな世界も少し関わるとその奥深さに驚かされます。この春にこちらに異動して以来、京都のまちの奥深さを痛感し、日々勉強、と思う毎日です。